

## 令和4年度鳥取県男女共同参画審議会 結果概要

1 日時 令和4年9月2日(金) 午後1時30分から3時まで (Web会議)

2 出席者 鳥取県男女共同参画審議会委員18名(別添名簿のとおり)

### 3 議事要旨

#### (1) 会長・副会長選任

次のとおり決定。

会長：渡邊太氏(鳥取短期大学 教授)

副会長：長谷順子氏(鳥取大学ダイバーシティキャンパス推進室 コーディネーター)

#### (2) 鳥取県性にかかわらず誰もが共同参画できる社会づくり計画の進捗状況について

事務局より説明(資料1、2)

#### (3) 男女共同参画推進に係る今後の取組について

令和4年度の主な取組について事務局より説明(資料3)

#### (4) 主な意見等

#### 【働く場における女性の活躍推進】

##### ○仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の推進

- ・企業の団体や男女共同参画推進の認定企業を通して啓発活動をしていったら、少しでも効果が上がってくるのではないかと思う。
- ・就活生として、就職活動の中で、育休産休取得率の数値は100%が当然だと考えていたが、実際はそうではないことが分かり、自分の望んでいる生活を安定して送っていけるのか、不安に思っている。企業側、社会一般の認識と、自分の認識に、ギャップを感じて戸惑うことが多い。

##### ○一人一人が能力を発揮できる職場環境づくり

- ・令和4年度の新しい取組のうち、企業の女性活躍推進モデル事業について、実際どういったことを行っているのか。  
→(事務局)現在、三つの企業を選定して、聞き取り等を行い、コンサル等派遣の検討、各企業の女性管理職の方々の交流の機会の提供等を行っている。12月ごろに成果等をまとめ、今年度中にホームページや企業回りをしている推進員により県内企業へ情報提供する予定。
- ・育休復帰に向けて不安を抱えているお母さんたちが、復帰後のイメージを持ちながら復帰ができ、そして長く働くことができるような取組ができないか。県外では、民間団体と教育機関が連携した職場復帰の支援策があったりするので、鳥取県でも検討いただきたい。
- ・女性が意見を言うときに、反発やパワハラを受けることが多く、その被害をどう受けとめていくのか。啓発に加えて支援体制が必要だと感じる。

##### ○農林水産業・商工業等の自営業における男女共同参画の推進

- ・農業の分野での男女共同参画は非常に遅れており、全体と切り離して考えてもいいくらい。
- ・農業協同組合でも、女性理事の登用に取り組んでいるが、数が伸びない。農村部には、昔からの男が中心の考え方があって、仕方がないように感じている。正直、何が男女共同参画の本当の姿なのか、明確な答えが分からない状況。
- ・女性の少ない業界においても、男性とは違う女性のアイデアをどんどん取り入れていくべきだと思っている。女性に活躍してもらえれば人材不足の解消にも繋がる。会社経営に対して、女性が働きやすい職場環境づくりを今後重点的に推進していけたら。

### 【地域・社会活動における女性の活躍推進】

- ・去年、琴浦町で女性模擬議会を実施したところ、通常の議会では出ないような意見が出る等大成功だったが、まだ女性のやることに反発があるように感じ、女性が中々政治に参画できない実態を感じている。
- ・県や市の男女共同参画の普及啓発が、一般市民にあまり伝わっていない。各町内会でも、人権に関する研修会は年1回行っているが、男女共同参画に関する研修会等はあまりされていない。
- ・定年退職の高齢化により、町内会長自体のなり手が少ない。例えば、副会長のうち1名は必ず女性にしてもらえば、次の会長への就任に繋がるのではないかと。

### 【生涯を通じた健康支援】

- ・コロナ禍において、がん検診の受診率が下がっており、受診控えが懸念される。今年度も、予約はしていても、コロナの感染拡大の影響により受診ができない方があり、この傾向は、家族の世話をされる女性に多い傾向が見受けられる。目標値を近いうちにクリアするのは難しいのではないかと。

### 【誰もが安心して暮らせる環境整備】

- ・鳥取県LGBT寄り添い電話相談窓口の設置は、先進的な取り組みだと感じている。その上で、LGBT等に関わる理解促進の機会をどう設けていくのかが課題。
- ・性的マイノリティ支援に係るコミュニティスペース設置数が目標値を達成したが、周知等これからが大事。スタッフのセクシャリティがあまり多様ではない、いろんなセクシャリティの人に会えない、という課題があり、他県などとの横の繋がりを作っていく必要がある。また、恒久的に持続するためには、スタッフの負担軽減も必要。
- ・子どもの小学校で、今年度から水着のラッシュガードが導入され、すごくいいことだと思った。これがもっと広がり、子どもたちが性について考えるきっかけになることを期待している。
- ・鳥取県内のあらゆる公共施設等のトイレの色は、相変わらず青と赤。ジェンダーフリーの観点からの点検が必要だと感じている。

### 【あらゆる暴力の根絶】

- ・人工妊娠中絶数について、令和3年度は目標値を達成しているが、目標値の7.5は平成23年の全国平均であり、鳥取県の人工妊娠中絶数はまだまだ多く、全国平均から見ると周回遅れ。より実施数が減少するよう、健康教育・性教育等で力になっていきたい。
- ・性暴力の防止及び被害者支援について、クローバーとっとりでは令和3年10月から24時間の体制をスタートさせ、目標値が達成はされているが、これからが大切。関係機関との連携はもちろん、性暴力とは何かを知ってもらえるよう、幼少期からの啓発等にも力を入れていくことが必要。

### 【男女共同参画の理解促進と未来の人材育成】

- ・「アンコンシャスバイアス」という横文字ではなく、わかりやすい言葉を使いながら啓発していくべき。
- ・鳥取大学で、本年6月下旬にアンコンシャスバイアス解消に向けたセミナーを開催したところ、多くの学生が受講し、関心の高さを感じた。
- ・育休取得率は上がっているが、実際に育児休業を取った方が、家事・育児できているかが大切。三世帯同居が多く、上の世代はアンコンシャスバイアスが根強く残っているので、そういった意識を変えていくことが大切。
- ・「とっとり若者ミーティング」のメンバーに施策の実行についても考えてもらい、取り組んではどうか。
- ・男性の家事育児参画推進については、特に男性に対して責任を強調すると引いてしまうので、子どもたちと一緒に家事育児を楽しむ、という設計で事業を作っていただきたい。

### 【評価について】

- ・今回すべての項目において、評価が順調または概ね順調とされているが、本当にそうなのか。令和7年度までに目標値には届かないことが予想される項目について、重点的に取り組んだほうがいいのか。
- ←(事務局) 評価については、定性的な要素も踏まえて総合的に判断しているが、今後、定量的な評価について、出せるものは他の数値等も出しながら、評価していきたい。